

「報告書の要約」

2030年にむけたSDG s（持続可能な開発目標）は2015年スタートし、2023年は中間点に当たります。産業界、教育界を中心に浸透し、経済界全体で段々と関心が高くなっています。ちょうど兵庫県では2022年「ひょうごSDG s宣言」のもと本格的な取組みが進み始めました。「ひょうご産業SDG s宣言登録事業」の呼びかけもあり中小企業でもSDG s導入が増加しています。ところで宣言企業数が増す一方で“SDG sが進展する企業”と“取組み方が分からない企業”とがあり、SDG s経営導入期の戸惑い現象もあります。そこで本調査研究は導入期から推進期に向けて求められる展開策を検討・提言することを目標としました。県内中小企業がSDG s経営を活用して更なる発展されることを期待して次の3段階で研究し、提言を致しました。

第1段階でまず「県内のSDG s導入動向と宣言制度について現状認識」を行いました。

第1章：各方面の取組みと「ひょうご産業SDG s推進宣言事業」について

第4章：「ひょうご産業SDG s認証事業」について

＜まとめ＞ 「ひょうごSDG s経営宣言」「SDG s推進宣言事業」などによって
中小企業関連各方面からのSDG sへの関心が高まり宣言企業数は増加している。
SDG s導入期の現状認識をする。

第2段階では「SDG s導入企業の実事例」を分析する

第2章：SDG s宣言企業全体の実態を定量分析（地域別・規模別・ゴール別等）

第3章：個々のSDG s企業の内容を定性分析（取組みのキッカケ、取組み方、成果等）

＜まとめ＞ “SDG s宣言したが何から取り組んでいいか分からない企業”も多くある。
また一方で訪問研究を行った10社のSDG s先進企業ではそれぞれ各社の状況に
合わせ社員教育、商品開発、人財採用、経営革新、事業承継を行いながら社会課題の
解決が進展しつつある。

第3段階ではSDG s推進期に向けて中小企業SDG s経営の展開方法を提言する。

第5章：SDG s経営の10ステップ法

第6章：ケース・スタディ（K社のSDG s取組み事例）

第7章：SDG s企業への支援方法

＜まとめ＞ 中小企業の規模と実情にあったSDG s経営の展開法を「SDG sコンパス＜
大企業版のSDG s経営手順書＞」も参考にしながら「SDG s経営10ステップ法」と
して提案する。同時にケース・スタディとSDG s企業への支援方法を提言する。

まだまだ未整備で研究不足な箇所もあることを反省するところです。そのうえで皆さまの
今後のSDG s経営推進にご参考となることを願っています。

以上